

株式会社東海メディカルプロダクツ 娘の命を救うため一から開発した医療器具

愛知県春日井市

血管内部で風船を膨らませて心臓病
患者などを救う医療器具、バルーンカ
テーテル。その国産品を初めて開発した
のが、株式会社東海メディカルプロダク
ツだ。医療分野の経験がなかった現会長
の筒井宣政氏が立ち上げ、国際的評価
を受けるまでに育った。

三尖弁閉鎖症など先天的な心臓疾
患を抱えていた次女の佳美さんの命を
救うため、別の会社を運営していた筒
井氏が1981（昭和56）年に設立。
当初は人工心臓の開発を目指したが、
開発費が膨大なため断念。その後、心
臓付近の大動脈内で風船を拡張、収縮
して血流を促す「A B Pバルーンカテー



「多くの命を救いたいと会社一丸で取り組んでいる」と筒井氏。



東海メディカルプロダクツの製品の生産・検査・品質管理は、厳重な管理の下、クリーンルームで行われている。

テル」を開発して事業を軌道に乗せ、現
在では、心臓病や脳梗塞などで使う約
30種類のカテーテルを製造している。
「娘のための商品ということもあり、
とことん検査し、絶対安全でなければ
市場に出さなかった。それが会社の信頼
を高めた」と筒井氏。2016年には、
優れた起業家を集めた世界大会の日本
代表にも選ばれている。
佳美さんは1991年に他界したが、
「人の命を救う器具を作ってくれてうれ
しい」という娘の言葉を胸にこれからも
研究開発の挑戦を続けていく。

株式会社第一測範製作所 オンリーワンの計測機器を開発

新潟県小千谷市

微細な加工を求められるものづくりの
世界で必須となる精密測定機器（ゲー
ジ）のメーカーとして、「ISSOKU（一
測）」の愛称で知られている株式会社第一
測範製作所。マイクロメートル（1000
分の1mm）単位で寸法を測定・検査でき
るねじゲージや医療機器用ゲージ、さら
にはインキ、塗料、化粧品などの粒の大
きさを測定する粒度ゲージなど、様々
なゲージで産業界を支えている。

そんな同社の技術は新しい計測機器
も生み出した。光の反射を利用して、
金属部品の穴の内径などを測定する光



同社オリジナルの光学式非接触小径内径測定器。右のタッチパネルを操作して、左の機器で測定を行う。



「職人技に自動化技術を組み合わせたい」と話す大平氏。

学式非接触小径内径測定器もそのひと
つ。タッチパネルの画面を操作するだけで
素早く簡単に測定ができ、しかも0・1
マイクロメートルの高い精度を誇る。
取締役営業企画部長の大平昭則
氏は「ゲージ作りで75年の歴史を重ねて
きた当社のオンリーワン製品。個々のお
客様の事情に応じたオーダーメイド製品
の提供が可能です」と話す。
同社のゲージ作りを支える「ソッピン
グ」と呼ばれるコア技術は今も熟練の職
人の手作業によるものだ。大平氏は「コ
ア技術を守りながら、必要に応じて自
動化対応も進め、今後もオンリーワンの
製品を世に送り出したい」と意気込む。

※微細な砥粒（研磨に使う粒子）を用いて、金属の表面のわずかな凹凸をならす技術。

頑張るあなたに贈る「ビジネス応援誌」

経営情報

KEIJIJOHO
12
December

業績や企業価値の向上につながる

「健康経営」®

